

令和7年度(2025) 水道事業会計決算概要

1. 概況

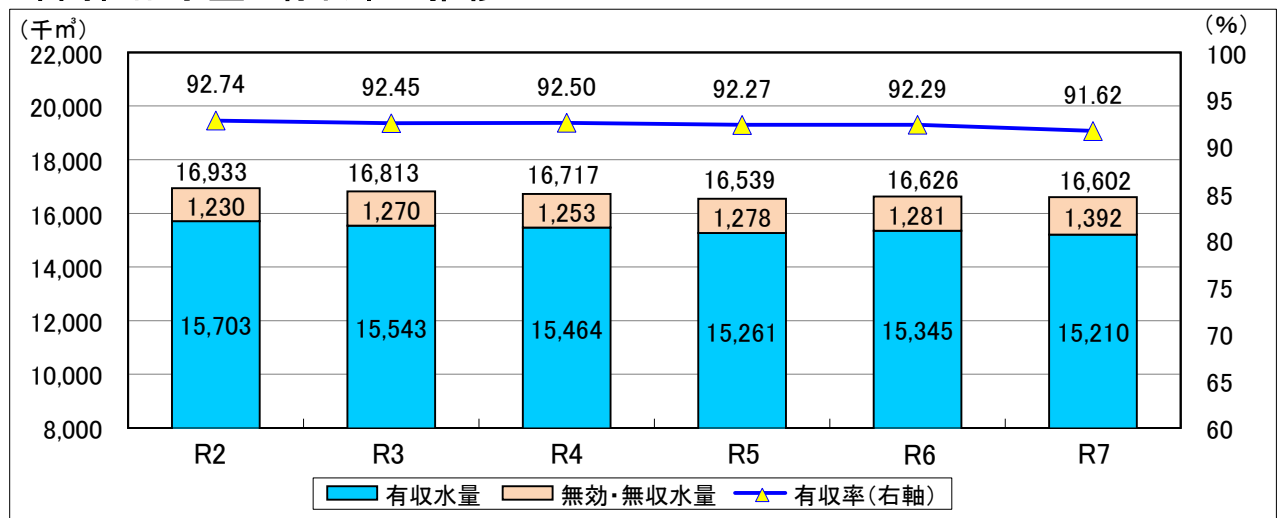
令和7年度は、「安全で安心な水を安定供給し続ける水道」を基本理念とする出雲市水道事業ビジョンに基づき、施設の更新や耐震化等の取組を更に進めました。

業務面では、給水戸数は前年度より増加しましたが、給水人口は前年度より減少しました。また、年間総配水量、年間総有収水量及び一日平均配水量は前年度より減少しました。

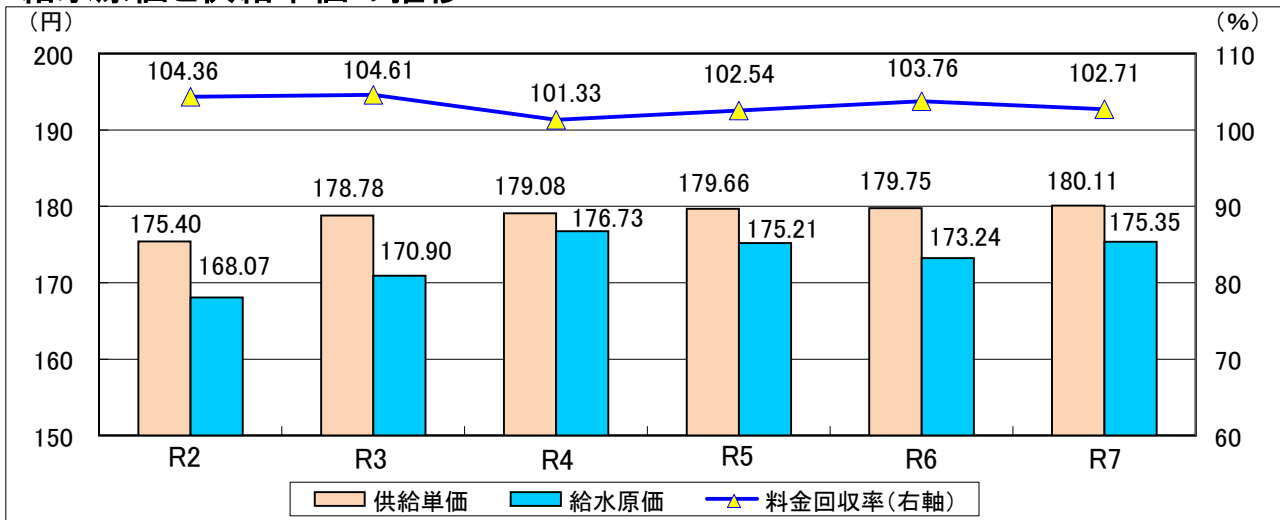
施設面では、老朽化した施設の更新や耐震化を推進し、災害に強い施設の構築を進める一方、安全で安定した水源を確保するため、新規水源(来原系)や出雲・平田地域の水運用に係る連絡施設の整備を進めました。

区 分	令和7年度決算	令和6年度決算	増 減
給 水 戸 数 (戸)	59,035	58,555	480
給 水 人 口 (人)	139,392	140,263	△ 871
年 間 総 配 水 量 (m ³)	16,602,029	16,626,482	△ 24,453
年 間 総 有 収 水 量 (m ³)	15,210,171	15,344,779	△ 134,608
一 日 平 均 配 水 量 (m ³)	45,485	45,552	△ 67

2. 年間総配水量と有収率の推移



3. 給水原価と供給単価の推移



※供給単価 = 給水収益 / 年間総有収水量
 給水原価 = (給水費用 - 長期前受金戻入) / 年間総有収水量
 料金回収率 = (供給単価 / 給水原価) × 100

4. 収益的収入及び支出

(単位:千円 税抜)

区 分	令和7年度 決算	令和6年度 決算	令和5年度 決算	令和7年度決算と 令和6年度決算 との差
水道事業収益	3,280,120	3,349,674	3,331,395	△ 69,554
営業収益	2,808,712	2,826,958	2,806,275	△ 18,246
水道料金	2,739,515	2,758,225	2,741,754	△ 18,710
原因者負担金ほか	69,197	68,733	64,521	464
営業外収益	471,314	522,666	525,100	△ 51,352
加入金	61,120	65,410	65,310	△ 4,290
他会計繰入金	38,726	45,166	49,969	△ 6,440
長期前受金戻入ほか	371,468	412,090	409,821	△ 40,622
特別利益	94	50	20	44
水道事業費用	3,026,742	3,057,416	3,073,117	△ 30,674
営業費用	2,835,988	2,860,162	2,874,852	△ 24,174
職員給与費	263,004	264,795	278,341	△ 1,791
委託料	436,461	422,142	393,473	14,319
動力費	257,950	256,171	253,193	1,779
薬品費	36,162	37,294	35,107	△ 1,132
修繕費	138,575	138,788	146,371	△ 213
減価償却費	1,446,233	1,483,345	1,504,937	△ 37,112
資産減耗費	89,728	88,731	91,711	997
受水費ほか	167,875	168,896	171,719	△ 1,021
営業外費用	189,789	196,612	196,487	△ 6,823
支払利息	148,353	141,117	146,108	7,236
その他営業外費用	41,436	55,495	50,379	△ 14,059
特別損失	965	642	1,778	323
営業利益	△ 27,276	△ 33,204	△ 68,577	5,928
純利益	253,378	292,258	258,278	△ 38,880

収入は3,280,120千円、支出は3,026,742千円となり、収入支出差引で253,378千円の純利益となりました。

前年度と比較すると、収入は、水道料金及び長期前受金戻入の減少などにより、69,554千円の減額となり、支出は、委託料が増加した一方で、減価償却費の減少などにより、30,674千円の減額となりました。

この結果、純利益は前年度より38,880千円の減額となりました。

5. 資本的収入及び支出

(単位:千円 税込)

区 分	令和7年度 決算	令和6年度 決算	令和5年度 決算	令和7年度決算と 令和6年度決算 との差
資本的収入	813,597	1,320,292	1,054,481	△ 506,695
企業債	356,900	705,800	500,000	△ 348,900
国庫支出金	5,967	35,669	550	△ 29,702
工事負担金	161,230	223,248	142,290	△ 62,018
他会計負担金	7,678	7,521	7,391	157
他会計繰入金	281,822	347,817	404,250	△ 65,995
固定資産売却代金	0	237	0	△ 237
資本的支出	2,240,878	2,789,892	3,106,876	△ 549,014
建設改良費	1,409,092	1,926,875	2,231,714	△ 517,783
拡張事業	121,334	227,886	699,498	△ 106,552
改良事業	1,238,882	1,413,143	1,506,211	△ 174,261
給水施設費	7,245	3,421	5,855	3,824
車両購入費	2,629	4,170	5,092	△ 1,541
機械器具備品購入費	19,973	10,591	14,987	9,382
土地購入費	19,029	267,664	71	△ 248,635
(建設改良費の内訳)				
工事請負費	1,104,981	1,423,230	1,958,521	△ 318,249
職員給与費	135,191	135,157	137,181	34
委託料ほか	120,044	82,642	110,007	37,402
給水施設費ほか	48,876	285,846	26,005	△ 236,970
企業債償還金	831,786	863,017	875,162	△ 31,231
収支不足額	1,427,281	1,469,600	2,052,395	△ 42,319

収入は813,597千円、支出は2,240,878千円となり、収入支出差引で1,427,281千円の収支不足となりました。

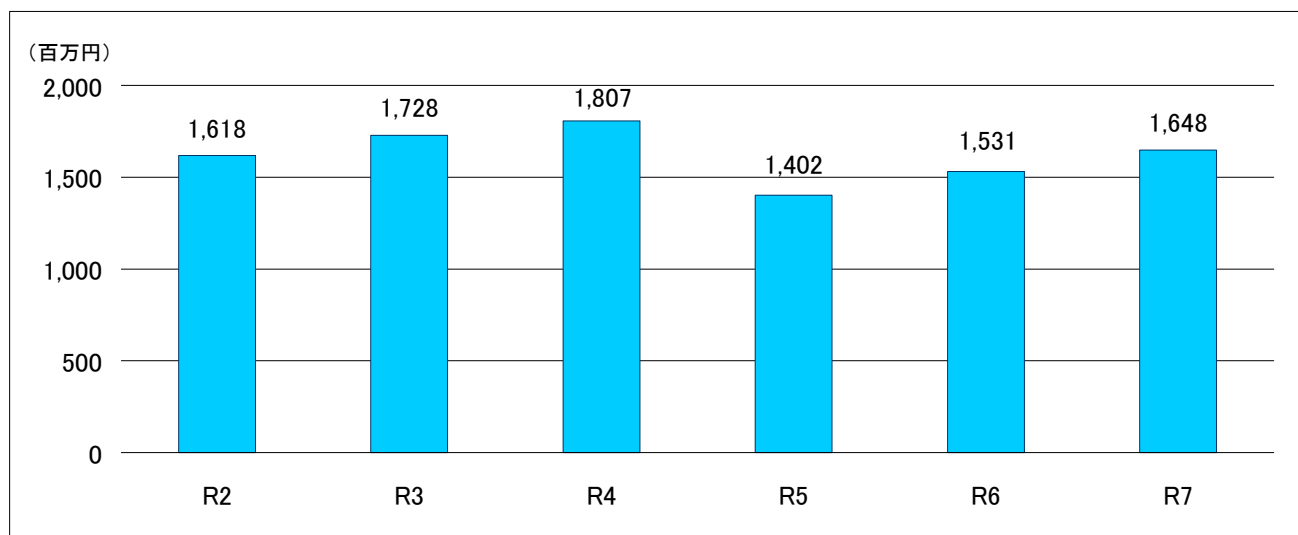
前年度と比較すると、収入は、企業債や他会計繰入金の減少などにより、506,695千円の減額となりました。支出は、翌年度への繰越事業の増加に伴い工事費が減少したことなどにより、549,014千円の減額となり、この結果、収支不足額は前年度より42,319千円の減額となりました。

なお、不足額は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金及び建設改良積立金で補てんしました。

建設改良工事

主なものとして、「園町本郷配水池外電気計装設備工事」「(支)湖陵町板津湖陵体育センター北配水管布設替工事」など総額1,360,216千円で実施しました。

6. 留保資金年度末残高



令和7年度末の留保資金残高は、資本的収支の収支不足額を補てんした結果、1,648,046千円となりました。

7. 経営指標

(単位: %)

項目	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
経常収支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	110.44	110.17	107.89	108.47	109.58	108.40
有形固定資産減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$	42.34	43.71	45.27	46.37	47.41	48.57
管路経年化率	$\frac{\text{法定耐用年数を超過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	28.97	31.34	33.04	34.09	36.17	37.52
管路更新率	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	0.67	0.86	0.53	0.51	0.61	0.29

経営の健全性を示す経常収支比率は、減価償却費の減などによる費用の減少に比べ、水道料金及び長期前受金戻入の減などによる収益の減少が上回ったため、前年度比1.18ポイント減の108.40%となりましたが、健全経営の水準とされる100%を上回っています。

資産の老朽度を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比1.16ポイント増の48.57%、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比1.35ポイント増の37.52%となり、施設の老朽化が進んでいます。

当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、漏水等の影響が大きい大口径の基幹管路の優先的な更新及び翌年度への繰越事業の増加により、前年度比0.32ポイント減の0.29%となりました。